



用し、介助を重ねる中で事前準備や段取りを洗練させていったと言います。一方食事の介助では、口に運ぶタイミングやペースに注意が必要です。漠然と運んでしまうとむせ込んだり大きな事故につながるため、のど元を注視し飲み込んだのを確認してからスプーンを口元へ運びます。



利用者の食事を介助する吉田さん。
口元やのど元の動きを注視する

の先輩である相手に敬意を払っています。
排せつや入浴の介助でも自分に置き換えて考えます。「自分だったら長々と時間をかけずに済ませてほしいので、利用者さんの負担を減らすために丁寧かつ無駄なくシンプルに終わらせることを心掛けています」。塗装工時代の「まっすぐ手を動かす」という教えを応

相手の意見や考えを確認し スケジュールを調整する

介護副主任という立場もあり、利用者以外にも目を向けていかねばなりません。シフト表を作成し各職員の1日の業務スケジュールを立案、担当や時間を割り当てています。日々10人前後の職員の調整をしていて、ちょっとした落としどころを見つけるのが難しいのだそう。「人それぞれ考え方や感覚が違うので、自分と意見が分かれることもあります。それでもどういう考えを持っているか聞かなければ落としどころも見つからないので、話を聞くことが大事ですね」。

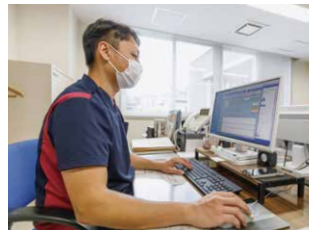
pick up!

施設長
原田 宗和さん



介護福祉士の資格取得を手厚くサポート

当法人では、介護福祉士の資格取得によるステップアップを促しつつ、手厚くサポートしています。例えばプリントを配って勉強会を開いたり、勉強に集中したいという要望があれば勤務も配慮するなどです。業務の習熟度を先輩職員とチェックするなど、教育システムが整っているので、未経験者でも問題ありませんし、人に優しく寄り添う気持ちがあれば、十分活躍できますよ。



ケアプランを作成する際は
文章に不備がないかしっかり確認

実は10年前にもシゴトガイドの取材を受けていた吉田さん。20代だった当時は振り返り、体力の衰えを認めつつも精神面では余裕が

用者さんの疾患や心身の状況など細かく把握する癖が付きました。一介護職員としてかわつていった時よりも解像度を上げて向き合えるようになったと思います」と、成長を実感しています。

働き方や将来を考え 介護の道へ

専門学校に進学し、建築や板金の塗装について学んだ吉田さん。卒業後は塗装工として就職しました。「足場を組むところから始まり、一般住宅の屋根や外壁を塗る作業をこなす日々でした。高所作業になるので、安全には気を付けていました。仕事にやりがいはいらないと考えるタイプで、「休みの日に何して遊ぶか」をモチベーションに働いていたと言います。しかし、繁忙期になると休みがないハードな日が続きモチベーションも低下。「何のために働いているんだろうか」と考えるようになり、3年目に転職を決意し、選んだのが介護の道でした。

塗装工から社会人生活をスタートし、働き方を考えて介護の道に方向転換した吉田さん。利用者や職員とのコミュニケーションを大切にして業務を行っています。現在は昨年取得したケアマネジャーの資格を生かし、ケアプランの作成にも挑戦中です。

コミュニケーションは 相手の立場になって 考えるのが大事

現在の業務は利用者の介護をメインに、シフト表の作成をはじめとする職員の管理業務、ケアプランの作成の3つに分かれます。吉田さんが利用者とのコミュニケーションで気を付けているのは、利用者の立場になって考えることだと言います。何をしても何かが嫌か、自分ならどう感じるかがベースになっているそう。「例えば、ご飯を食べている時に『どうですか、おいしいですか』などと聞きがちだと思うんです。しかし、自分なら食べている時に聞かれたくないので言わないようにしています」。普段の会話でも子どもと話すようなトーンではなく、人生

できたときの流れを実感します。「まだ若かったので、時にはうまくいかなかったりイライラすることもありました。さまざまな経験を重ねるうちに深く考えられるようになっていきましたね」。10年前との生活の違いである、妻と子どもとの生活のためにも誠心誠意仕事と向き合う吉田さんでした。



吉田さんが登場した10年前の誌面。笑顔や雰囲気は今と変わらない



社会福祉法人 寿光会が運営する地域密着型の特別養護老人ホーム。家庭的な雰囲気を大切に、一人ひとりがその人らしい生活を過ごせる環境を提供している。

地域密着型特別養護老人ホーム
ヴィラ・プラタナス
旭川市大町1条18丁目134-6
tel.0166-50-0011
<https://www.jukoukai.net/>